空軍ニュース：ロシア S-400 地対空ミサイルの対中輸出

漢和防務評論 20151030（抄訳）

阿部信行

（訳者コメント）

ロシアの最新型地対空ミサイル S-400 の対中輸出について、KDR 記者がパリ航空ショーで取材した記事を紹介します。
S-400 の輸出協議は 2014 年末に終了し、署名されたとのことです。S-400 は現在ロシア軍向けに生産中で、中国が入手するのは 2016 年から 2017 年になるようです。
KDR の平可夫氏は、射程 380 KM タイプの S-400 が東シナ海沿岸に配備されると、日米の早期警戒機の行動が大幅に制約されると述べています。

KDR 平可夫パリ特電：
KDR 記者は、パリエアショー（2015 年 6 月 15-21 日）において S-400 地対空ミサイル及び SU-35 戦闘機の対中輸出に関してロシア軍事装備輸出の責任者を取材した。

Q: S-400 の対中輸出協定は正式に締結されたのか？
この問題について、ロシアの軍事装備輸出に詳しい高レベルの消息筋は次のように述べた。
A: 貴社の記事の中に：「ロシア国家武器輸出入総局総裁 ANATOLY ISAIKIN は、ロシアメディアに対する談話において”我々は 2014 年末、中国と S-400 の輸出協定を締結する。中国は S-400 を使用する最初の国家である”と述べた」とあるが、その通りである。中国側はこの協定の細部について言及することを望んでいない。

ANATOLY ISAIKIN は、今回のパリエアショーには出席しなかった。したがって KDR は、彼の当時の談話を確認するすべはなかった。KDR は協定締結の時期を確認したかった。それは今年のはずである。

Q: ANATOLY は、談話の中で CONTRACT（契約）の言葉を使用したのか？
A: その通り。CONTRACT と表現した。
Q: メモランダム（覚書）ではないのか？
A: 彼は確かに CONTRACT の言葉を使った。KDR は、ロシアメディアの S-400 と中国に関する今年の報道をチェックした。4 月 13 日、モスクワ時報は「CHINA AND RUSSIAN SIGN CONTRACT FOR S-400 MISSILE SYSTEM」と題する報道を行った。同報道が引用したのは「コメルサント」紙の A.ISAIKIN に対する取材であった。報道において確かに”購入”の言葉を使用したのは過去にもあった。

今回の報道では数を 6 個師団（DIVISION）としているが、師団ではなく”大隊”のはずである。
その他の消息筋からKDRが入手した情報は:中国は4個大隊のS-400を輸入する。2017 年に支給を開始する、である。
KDR は、ANATOLY ISAIKIN の話し方は厳密で、精確であり、ロシア軍事装備輸出の責任者として最も権威ある説明であると考えている。したがって中国とロシアは、すでに 2014 年末に 4 個大隊の S-400 を輸出する協議に署名したと認めることができる。
また中露が過去に署名した S-300PMU、PMU-1、PMU-2 型地対空ミサイルの輸出協議の経緯を見れば、この種の協議署名は、SU-30 や SU-35 戦闘機の輸出のとは異なる。前者（地対空ミサイル）の交渉に争点となる問題は少なく、署名に至る時間はあまりかからない。最初の輸出協議の対象は、通常 4 個大隊分か 8 個大隊分(PMU-2 の場合）のミサイルである。中国は S-300PMU-2 を輸入した最初の国であった。S-400 が使用する射程 380 KM の 40N6 型ミサイルは、中国への輸出が確定したものと思われる。これだけでなく、S-400 が使用するその他のミサイルは、射程が 200 KM 以下である。PMU-2 の射程も 200 KM である。中国空軍は、PMU-2 を台湾海峡及び上海等に配備している。全部で 8 個大隊である。スホーイ戦闘機の輸出と異なり、地対空ミサイルは消耗品であり、したがって中国が輸入する数は多くなり、コピー生産の期間も長くなる。
しかし S-400 は、現在ロシア軍向けに生産されており、したがって協定を履行する時期は 2016 乃至 2017 年以降になる。ANATOLY ISAIKIN は、取材中、中露の戦略的パートナー関係の重要性を特に強調した。ロシアは、S-400 の対中輸出協議を迅速に締結するであろう。これは西側のウクライナ問題に対する姿勢へのロシアの直接的対応であると KDR は考える。ウクライナ問題は、ロシア軍事工業界及び国防部軍人たちの対中姿勢を完全に変えた。
S-400 は、台湾海峡北部、中部空間を完全に封鎖出来るだけでなく、台北上空を射程内におさめ、しかも東シナ海の日中中間線の中国側の一部まで含めることが出来る。これは、日米の早期警戒管制機（AWACS）、海上偵察機にとって致命的な脅威となる。P-8 及び P-3C 偵察機は中国沿岸から S-400 の射程外の 380 KM 以遠でしか行動できず、偵察の効果は大幅に低下する。

以上